

わが故郷(第2の) 古都(江戸鎌倉)を訪ねて!

異郷に生きる



箱根山 (7ページに続く)

区立新宿博物館蔵



(6ページに続く)

鎌倉を散策した二九会の有志

山形南高(山形市・高) 東京同窓会報

第5号
発行人 千代田区平河町2-6-3
山形県東京事務所内
山南東京同窓会事務局
TEL. 03-5212-9026
斎藤常男
編集者 鈴木 隆



俳聖
|| 深川を訪ねる ||

松尾芭蕉

(江東区芭蕉記念館より)



深川に
芭蕉求めて
華おとこ

終日深川界隈を散策する。
芭蕉翁の銅像前で
華九会のメンバー
6ページに続く





第6回総会 — 平成
南高精神を発揮して気安く



山形弁でたっぷり2時間 楽しいひととき—心は大満足



9年10月 和気合々の総会



先輩、後輩一つの輪になって。しかも多士済々



会長のあいさつ



同窓会のみなさん、
心を一つに！

山形南高東京同窓会会長
齊藤 常男

今年も夏の高校野球大会で、多くのドラマが展開された。大会では、勝利を称え校歌が流される。勝利校は、誇りを持って校歌を歌い、「心が一つ」になる感動的な時である。

6月、南高東京同窓会の学年幹事会の終了時に、校歌を歌った。「南高の校歌は素晴らしい」と「心が一つ」になり、「南高」の心を思い出し、感動し合った。ここに青春があった。

母校の南高野球場には、「甲子園で勝利して校歌を歌おう」と大きく掲示されている。

野球部は、母校の発展と志気高揚のため、「南高の心を一つ」にと、甲子園を目指し頑張っている。他の運動部も懸命に頑張っているし、文化部も同様である。

南高東京同窓会も、我々を育ててくれた母校に感謝し、「南高の心を一つに」するために活動を行っている。同窓会の発展に必要なことは、大同団結して心が一つになることである。同窓会のみなさん！心を一つにしよう！



本部長のごあいさつ



山形県立山形南高等学校
同窓会会長 千歳 貞治郎

山南同窓会東京支部の皆さん、お元気で明るく御暮らしのことと存じます。華の南高を卒業された方々は首都圏に三千名を数えています。皆様とともに母校は

歴史を刻み成長していることを喜んでおります。

今年是北京五輪がありました。山形でも高体連で南高躍進の素晴らしい連日の報道がありました。スポーツ・文化における各部の奮闘は諸兄の遺伝子をうけつぎ立派で頼もしいものでした。同窓会も本部総会は毎年盛大であり又各職域においても「県庁」「市役所」の各校OB会の迫力はさすが南高と賞賛されております。山形県内の吾が同窓の実績は各方面、各局面で重大な存在となっており更なる責任と自覚を求められております。母校の発展は先輩の誇りであり後輩の自信となっております。ただどんな人でも故郷を忘れ去ることは出来ません。母の味噌汁、昼の学食、みどり溢れる借景の山なみ、馬畔の流れの香りと味は南高精神の原点であり共有している同根の私達です。

これからも同窓各位の御健康と御多幸と御精進をお祈り申し上げ、おわりに県東京事務所の方々と会報発行者に感謝を申し上げます。

特記（同窓各位が待望していた同窓会名簿を来春発刊いたします。御協力下さい。）

母校の校長先生のごあいさつ



山形県立山形南高等学校
校長 高橋 健二

母校南高は、二中・二高・南高と歴史を刻み、今年で67周年を迎えました。この間、同窓生の皆様が築いてくれた歴史と伝統は「南高魂」として代々受け継がれ、それぞれに高い目標を掲

げて「文武両道」にがんばっております。

さて、この4月に280名の新入生を迎え全校生徒841名(各学年普通科6クラス・数科1クラス)、全教職員71名で平成20年度がスタートしております。本校教育の重点は「新しい時代を切り拓き、逞しいリーダーとなって社会に貢献できる生徒」の育成であります。今の日本は激動の中にあり、経済の立て直し、医者確保、高齢化社会への対応、地方自治体の財政危機等々、多くの課題を突きつけられております。将来はこれらに敢然と立ち向かい、山形県を日本を背負って活躍できる人材に成長して欲しいと期待を込めております。このような中、首都圏にある「山形南高東京同窓会」の存在は、本校教育の充実発展に大変心強いものとなっております。是非機会を作っていただいて南高に足を運ばれ、学校をそして生徒の活動の様子を見ていただき、激励してください。

山形南高東京同窓会のますますのご発展とご隆盛を祈念し、あいさつといたします。

(高橋校長は南17回卒です。在学時は陸上部で活躍しました。)



想い出のスケッチ 西全景



19年度 総会出席者一覧 (敬称略)

二中2卒 小原 久男	南高2卒 今田 幸雄	南高6卒 阿部 敏	南高9卒 石垣 丘志	南高10卒 佐藤 義幸	南高33卒 高橋 健一
二中4卒 奥山 正博	南高2卒 須藤 清	南高6卒 江口 光夫	南高9卒 小原征四朗	南高10卒 清野 正昭	南高33卒 西宮 忍
二中5卒 加藤 忠利	南高2卒 厚朴 興二	南高6卒 小関 憲一	南高9卒 工藤 大和	南高10卒 原田 陣悦	南高35卒 渡辺 弘樹
二中5卒 駒林 誠	南高3卒 千場 光男	南高6卒 加藤 芳男	南高9卒 齊藤 信	南高10卒 平尾 真次	南高36卒 山田 健嗣
二中5卒 前田 一郎	南高3卒 藤井千代子	南高6卒 佐藤 忠雄	南高9卒 鈴木 隆	南高10卒 平澤 一宏	南高42卒 吉原 智博
——	南高3卒 山本 芳子	南高6卒 佐藤 寛	南高9卒 須藤 迪	南高11卒 有海 豊	—学生—
二高2卒 江口 文雄	南高3卒 吉野 禮三	南高6卒 高橋 亨	南高9卒 高橋 英也	南高12卒 内野 庄八	南高52回 滝口 翔平
——	南高4卒 浅黄 優喜	南高6卒 中村 武	南高9卒 滝口 武志	南高17卒 菊地 信幸	南高52回 増川 未来
南高1卒 杉山 彬	南高4卒 鏡 清蔵	南高6卒 林 正夫	南高9卒 富木 政邦	南高24卒 山口 和士	—事務局—
南高1卒 椿 尋昭	南高4卒 作山登喜子	南高6卒 渡辺 滋	南高10卒 赤松 勇二	南高25卒 鈴木 淳一	南高23卒 渡邊 修
南高1卒 森谷 亨	南高4卒 佐藤 寛治	南高7卒 早坂 仁作	南高10卒 石川 邦夫	南高25卒 土田 和男	南高36卒 吉田 正幸
南高1卒 山口 正輝	南高4卒 早藤 寛治	南高8卒 武田 幹雄	南高10卒 尾形 昌広	南高25卒 村岡 登	南高40卒 齋藤 健二
南高2卒 梅津 繁	南高4卒 松田 公	南高8卒 山田 勲	南高10卒 鎌倉 崇	南高27卒 青野 城也	
南高2卒 加藤 伸	南高4卒 森 寛爾	南高8卒 渡辺 時彦	南高10卒 久連山幹彦	南高28卒 奥山 俊一	
南高2卒 小林 茂	南高5卒 斎藤 常男	南高9卒 栗野 賢一	南高10卒 佐藤 昌平	南高28卒 相馬 和弘	

「卒業してから50年」

片桐 郁夫 (南9卒)

過去をふり返ることを好きではない私に「卒業してから50年」という題で何か書いてくれないかと言われても何を書いたら良いのか見当もつかない。

脳科学者の茂木健一郎は、「昔のことを思い出すことは新しい創造につながる」と言っている。どういふことかと言うと、忘れかけた昔のことを一つひとつ思い出すことは、脳の前頭葉という部分を刺激し、前頭葉は脳の中で最も創造的な働きを司る部分であって、ここへの刺激は新しいことを生み出す活力を養うということになると言います。

私にとって、過去をふり返るとか、思い出すなどは、懐古主義で年寄りっぽいと思うのだが、脳科学者の言うことを信じて過去をふり返ってみるのもよいかもしれない。

私の人生の糧としている建築の設計は、特別に訳あってこの職業を選択したのではない。建築は単なる純粹技術ではない。そこには芸術性と機能、そして遊び心も求められる。私には、建築の持つこのような多様性と曖昧さみたいなところが好きで、この職業を選択したことに満足している。

今日まで42年間建築の設計に携わってきたが、今から思えば、あの問題を解決できなかつたら、あの時に失敗していたら今の私はなかつたらと思うことが多々ある。幸いにして大怪我に至ることもなく、今も生かされていることは、ラッキーな人生であった。

建築を通して何を得たかと言えば、知性とユーモアにあふれた建築主に恵まれたこと、そのことによって良い建築を設計する機会を与えられたことが、何よりも私の大きな財産となっている。

これからの人生は、一生現役として仕事を楽しみ、趣味(蕎麦打ち、ワイン、チェロ演奏)を楽しみ、ますます豊かな人生を歩み、様々なことにこれからもトライしていきたい。

ある建築主に言われた「あなたは畳の上で死ぬのは似つかわしくない。野垂れ死にが似つかわしい」と。

私の脳の前頭葉を大分刺激したようだ。

(前設計事務所 所長 江東区在住)

剣道部の活動とOB会

平尾 眞次 (南10卒)

平成20年の高校総体で、母校の現役選手たちはよく健闘し、剣道、バスケットボール、バドミントン、ボクシング(個人)が県大会優勝、埼玉県で開かれた全国大会(インターハイ)に出場した。

このうち剣道部は22年ぶり3度目の快挙とあって、私たちOBとしても実に誇らしく、大いに沸き立った。さっそく応援協賛の呼びかけがおこなわれ、短時日のうちに予想以上の反響が寄せられた。

8月3日の試合には東京と近県から10数名のOB

母校に惚れた親

山形南校と母

斉藤 玲子 (南5卒)

(旧姓 小原)

私の高校進学先を「山形南高」がいいと熱心に薦めたのは母であった。日頃は何事にも応揚に構え、あんまり物を言わない母だっただけに今でも不思議な気がする。当時既に兄二人(長兄、三兄)が山形南高で学んでいた事から、運動会等の催しには楽しみに出かけ、男女共学校として若者らしく、はつらつとさわやかな活動風景を眼の当りにして居り深く感じいていたらしい。にわかには中学の担任の先生と受験勉強が始まった。長兄は山形二中時代に応援団長をつとめ次期団長である故吉村和夫さんと長崎の自宅で熱心に応援練習をしている姿を、母は間近に見ていた事もあり特に思い入れも深かったのかもしれない。高校時代は橋本先生から勧誘されて水泳部員として山形四小プールで野田瑠美子さん達と泳ぎ、又茶華道部に所属し先輩達と上の山の先生宅で稽古した事、山口孝次郎先生の率いるサッカーや、柔道部合宿試合での炊き出し手伝い等を思い出す。この時代に私の大切な財産となる出逢いに恵まれた。追試を記念して友と写真館に入った事も懐かしい。母は学校の催し等で出かけた後はいつも諏訪神社の便所の掃除をしていたとの事、山形南高に子供達を通わせる幸せ、よろこびをそんな形で表していたのかも知れない。そんな母も私が一年生の終わり三月に早逝してしまった。そして三年が経ち弟が入学、計四名、母の遺志が脈々と活き、今思うと私の一生は母の導きの上であり近頃一人感慨深いものが有る。

親が惚れ惚れして薦める学校、これこそ南高の誉れです!



会員が会場に駆けつけ、山形から来た校長、保護者、OB、現役生らの応援団と一体になって声援を送った。選手たちは期待にこたえて勇戦し、惜しくも予選リーグ突破は成らなかったが、文武両道の南高らしい堂々たる戦いぶりを見せてくれた。

剣道部OB会には、東京支部として関東一円在住の会員が50名以上いる。剣道部創設以前からの大先輩・佐竹義宣氏(南高3回)、最高位8段の吉山文男氏(南高5回)を筆頭に、古参から58回卒の学生まで、世代を超えて「南高」の強い絆で結ばれ、剣道の稽古や折々の懇親会など交流が続いている。
(大手新聞社退職 千葉市在住)

古都を訪ねて

「東京二九会」の行事と 「いざ！鎌倉」に就いて

森 寛爾 (南4卒)

初秋の青空の下「古都鎌倉古刹巡り」を有志数名で、円覚寺～東慶寺～浄智寺～建長寺～鶴岡八幡宮～腰越の満福寺と古刹を巡り七里ヶ浜の浜辺を裸足でサクサク・ピチピチと歩いた事・ピカピカと光る海・真っ白く浮かぶヨット・忘れ難い行事でした。

今鎌倉は「いざ！鎌倉」という時のようです。

頼朝 頼家 実朝の源家三代27年そして北条家執権十六代130年、60万の大軍新田義貞の鎌倉攻で1333年5月22日鎌倉幕府が滅亡するまで約150年間武家政権都市を築きました。統治者となった武家の思想を反映した新しい武家文化が様々な形で後世に引き継がれ室町幕府・戦国時代・江戸幕府と約700年にわたる武家の時代を築きました。中世の中心都市鎌倉は現在国宝15件、国指定重要文化財199件それに神奈川県指定重要文化財72件、鎌倉市指定重要文化財286件と又埋蔵文化財の存在が確認できている地域(包蔵地)は鎌倉市域の60%以上・それに国指定史跡のエリアの全体を合算すると186ヘクタール、市全域の4.6%で街全体が遺跡と言っても過言では無いのです。「武家の古都鎌倉」として古都京都・奈良に続き世界遺産への登録をめざして、「いざ！鎌倉」なのです。神奈川県民の一人として大いに応援していきたいと思っております。



校友の出版本の紹介

■タイトル：『赤い虹青い虹——魅力的な絵を描くために』

■著者名：横尾 正夫 (南6卒)

■出版社：駒草出版社

■定 価：3,150円

■オーケストラ群像の一時の表情などを描き続ける光風会会員の画家による絵画技法書。名画や静物の写真素材を交え、奥行きを表す色のグラデーションや陰影の付け方といった絵画の基礎を、初心者にもわかりやすく紹介。色彩法や遠近法といった様々な画法を用いた絵画表現を、技法面にスポットを当てて解説する。



著者の横尾正夫氏と駒草出版社の村山惇氏は小学・中学・高校通じての同級生。

江戸を訪ねて

松尾芭蕉と深川の史跡探訪

華九会 滝口 武志、富木 政邦 共筆 (南9卒)

20年8月9日(土)華9回卒業生15名、約6km(13,000歩)の道程を暑い中深川を探訪した。途中神社仏閣、清澄庭園等13箇所を見学し、昼食は山形名物板そばを喰らい、夕方は門前仲町で山形県人の夫婦で営んでいるスナックを借り切り、存分に談じ合い、歌いあった。

今回の探訪目的は、元禄2年(1689年)8月27日に弟子の河合曾良と東北・北陸をめざし此処深川の採茶庵から46歳の松尾芭蕉が旅たった場所で、我々が母校を卒業し50年を経た今、上京して紆余曲折しながらも元気である今日、自分をじっくり振り返り見直そうと考えることにあった。

松尾芭蕉は先ず墨田川を舟で上り、千住より出立する。千住-白河-仙台-新庄-山寺-新庄-鶴岡-酒田-越後-岐阜大垣(最終)8月21日、160日間、600里(2400km)の旅を終えた。その後、大阪御堂筋の旅籠(花屋仁左衛門)で51歳病没した。はかない人生の果てに、「旅に病んで夢は枯野を駆け廻る」が最後の句になった。芭蕉の生涯がまぶたに浮かぶようだ。俳聖は山形で、

- ・雲の峯 幾つ崩れて 月の山
- ・夏の日を 海に入りたる 最上川
- ・蚤虱 馬の尿する 枕もと

の句を詠んでいる。

短い深川探訪を終え、我々同窓生は「事なして心はいつも宇宙を駆け廻る」とでも考えたのではなかろうかと思ひ巡らした次第です。

(建築コンサルタントとして全国で公演中 佐倉市在住)

富岡八幡宮にて 華九会 (南9卒)



箱根山

吉野 禮三 (南3卒)

所在地：新宿区戸山2丁目 都立戸山公園内

アクセス：①東西線早稲田駅3番口から、早稲田大学文学部前を通り公園へ

②副都心線西早稲田駅3番口を出て、コズミックセンターの前で明治通りを横断し、真直ぐ東南に進み公園へ

この小高い山は、今では「名所」といったものではない。旧都内で標高が44.6mと最も高い(ちなみに2番目は愛宕山)というだけで、桜の季節に物好きが集まってきてお花見をするには最高の穴場である。頂上に立つと、大隈会館や国立医療センターがそびえ、周囲にはビルやアパートが密集しているが、すぐ目の下に教会がありほっとさせられる。

ただこの辺の歴史が面白い。

箱根山から明治通りまでの一帯は、尾張徳川家の下屋敷「戸山荘」があったところで、江戸時代には後楽園に並ぶ回遊式庭園があったところである。二代藩主光友が造営し、かの宗春など歴代の藩主が蘊蓄を傾けた遊びの極意であり、面白い庭園として家斉など將軍御成りの名園だったのだ。池があり、川があり、滝があり、幕末の記録では、神社並びに堂塔38ヶ所、御亭や御茶屋など107ヶ所もあった。さらに戸山荘二十五景と称される名勝が作られ、東海道五十三次の景色が写されていたという。140メートルの街道筋には旅籠屋、本陣、米屋、酒屋、飴屋などが軒を連ねていたという。後年、謹慎を受けた七代藩主宗春などにいたっては、吉原の花魁・春日野を身請けしここに住まわせ、「春日野は東海道を八文字」と江戸中の評判になったそうである。なんとも豪快ではないか。江戸250年の平和がこんな歴史をも作った。



写真の絵(表紙)は、早稲田の文学部校舎を作るときに遺跡として発掘され、現在名古屋の徳川園に再現されている「龍門の滝」である。深山幽谷の趣で轟音とともに滔々と流れ落ちていた当時の様子がこの絵によく表れている。数年前わざわざ徳川園に滝を訪ねてみたが、面影はどこにもなくまことに残念であった。

明治の代になり、ここは廃藩置県施行の御親兵として在京した薩摩軍の宿泊所となったが、後に近衛騎兵連隊と改められ、明治七年には陸軍戸山学校が誕生し、下士官の養成・訓練が行われた。現在の国際医療センターは陸軍第一病院であり、この一帯は軍人さんの町であった。

戦後23年、東京都がここに自然動物園と競技場を建設する計画を立て、米軍司令部司令官に伺いを立てたところ、「東京の大勢の市民が家がなくて困っている。動物と人間とどちらが大切と考えるか。軍の材料を恵んでやるから大至急一千戸の家と鉄筋コンクリートのアパートをつくれ！」と一喝され、翌日から米軍のブルドーザーで川も池も軍の施設は見る間に消え、眼下に並ぶ一千戸の「戸山ハイツ」が生まれた。大きな歴史の移ろいをこの「箱根山」はじっと見てきたのである。

(大手生産会社退職 新宿区在住)



校友の出版本の紹介



- タイトル：『不働産業ほど面白い仕事はない』
完売につき増刷して出版
- ペンネーム：大江隆司
- 著者名：鈴木 隆 (南9卒)
- 発行：週間住宅新聞社
TEL. 03-3209-7721
- 定 価：1,260円



想い出のスケッチ 生徒正門

文明の差異を知ることは、日本人を大人にします。

東京同窓会のホームページ開設!!



私の海外体験 (クラリнда、パートI)

奥山 俊一 (南28卒)

今から20年前、仕事の関係でクラリндаという町に約1年間住んでおりました。

クラリндаのあるアイオワ州はアメリカ合衆国のほぼ中央部に位置しており、田舎の州と言われていました。町は見渡す限りのトウモロコシ畑に囲まれ、全米一牛肉のうまい所として有名です。毎晩、300gのビーフステーキを食べておりました。またバンド・リーダーとして世界的に人気の高かったグレン・ミラーが生まれ育ったところとしても有名です。

私の住んでいた家は隣家まで20m以上あり、森の中に点在するようなゆったりとしたもので、隣との囲い等は一切なく芝庭でつながっています。まるで映画によく出てくる閑静な住宅地です。街路樹や電線の上ではリスが遊び廻り、地上ではウサギや鹿をよく見かけました。

治安は非常によく、買い物をするため駐車場に車を止める際、ドアにロックをしないどころか、窓は明け放し、キーも付けっ放しの状態でした。ここ何年も強盗事件すらなかったそうです。信じられないかも知れませんが、本当の話です。田舎町と言われる所以です。

アメリカの男性は、休日もよく働き(働かされ?)朝から芝刈り機で芝刈りや家族サービスを怠りません。(アメリカ人の男性に生まれなくてよかった?)

ある日ポストに回覧板らしきものが入っていました。その内容は、芝が伸びすぎて見苦しいのですぐに刈りなさい。また洗濯物は外に干さないでください。もし干すときは、道路から見えないところに干すこと…。これを読んで驚きました。カルチャーショックです。

住民たちは自分の住んでいる一体の住環境を非常に大切にします。

逆に日本人の多くは自分の所だけきれいであればいいという感覚ではないでしょうか。それも勝手な好みで。

諸外国の町並みをきれいに感じるのには、そこに住む住民たちが、建物(住環境も含め)の色や形の統一性・連続性を守り、街全体として美しい景観となるよう住民全員



更なる躍進に向かって

会長 齋藤 常男 (南5卒)

待ちに待っていた「東京同窓会」のホームページが開設されました。

役員一同、開設の必要性は確認はしていましたが、今回、関係者の取り組みとご努力により、着手することが出来ました。心からお礼を申し上げます。開設は同窓会活動として画期的なことであり、新しい歴史を切り拓くものがあります。当会は、諸般の事情により、しばらくの間活動を停止していましたが、活動再開から今日まで、多くの諸先輩や同窓会の方々からお力をいただき「東京同窓会の灯は消してはならない」という熱意と発展を願う人々が結集し活動を継続、みなさんのご協力により一定の成果を出すことができました。我々は、南高の「文武両道・師弟同行・質実剛健」という建学の精神のもと、勉勵を積み重ね、多感な青春時代を送ってきました。異郷に住み、多忙な中でふと思い出すのは、故郷と南高時代の自分の姿ではないでしょうか。青い空、白い雲、緑色増す千歳山、数々の思い出残る校舎やグラウンド、友と歩いた山形の町～年を重ねるに従い望郷と追憶の念が強くなってきます。ここに我々の姿と心の触れ合う原点があると思います。共に学んだ自分の姿と心を追い求め、山形南高の名を不滅なものとするため、当会を結成し、同窓生の心に触れ合う場として活動していくことは、大きな意義あることと考えるものであります。我々は、いまホームページを開設し、同窓会を基点に親睦を深め、共に歩み、これから南高を飛び立ち羽ばたく南高在校生のため、未来を創り上げようとしております。

「山形南高は我々の心の中で永遠に不滅である！」
を合言葉に

同窓会の皆さん 同窓会発展のため、お力を!

補足)

Google 検索: 山形南高東京同窓会

Home Page URL: <http://www.geocities.jp/yamanankou/>



が参加して、調和の為の自粛につとめ、総意を優先して監理しているからだと分かりました。

そんな事があり、すぐに芝刈りをやるはめになりました。とは言っても会社の仕事が忙しく、また異国の社会にただ一人放り出されたので疲れており、広い芝生も手に余り、機械も不慣れなので、人を雇ってやっとお茶を濁したという次第です。

(ゼネコン勤務 牛久市在住)

空はコバルト



南天会は今年も元気です

平澤 一宏 (南10卒)

4月5日(土)東京の臨海地区の若洲公園で南天会の芋煮会を行いました。秋までは待てない桜の下でやっちゃおうという趣旨です。

幸い好天に恵まれ、家族友人を含め36人が参加。芋や牛肉などの食材は全て山形から直送し文字通り故郷の味を再現しました。かまどの周りはやれ上山流だの山辺流だのと鍋奉行でケンケンガクガク。最後は奥様方の仕切りで無事最高の味に煮上がりました。名物煮こんにゃくの醤油の沁み具合もバッチリ。酔うほどに山形弁まるだしで会話が弾み、ここが東京であることをすっかり忘れるひとときでした。

最後に肩を組んで校歌と空はコバルトを高らかに歌い散会しました。

南天会は今年も元気で芋煮会の他

3月19日 太平洋CC美野里コースでゴルフ会
(16人参加)

6月3日 読売新聞社本社見学会(26人参加)を
行い、更に

9月22日は横須賀の記念三笠艦の見学 日産自動車追浜工場の見学会、12月は忘年会を予定し、年末にかけて大いに楽しもうと思っております。

慶事のお知らせ

齊藤常男様(南5卒)が杉並区会議員として、勤続25年の功績により表彰されました。本人は何も言いませんが、単身田舎より出て来て、未知の世界での苦難と努力はいかばかりかと頭の下がる思いです。編集者より慎んでお知らせいたします。富塚辰雄様(南9卒)練馬区会議員として、勤続20年。他に榮譽を受けた方がおられましたら鈴木までご連絡ください。

青春を取りもどせたら



松田 公 (南4卒)

自治会にかかわって6年、役員20人中男3人、女性上位の自治会、女性の熱気が私をとりこにして、ハーレムかはたまた地獄か、会長の特権か……青春よみがえったらうれしいね。—

(自治会長として活躍 千葉市在住)

健康維持について



工藤 大和 (南9卒)

60歳を数年過ぎてから、少しずつ体重も増え始め、体が重く感じられるようになりました。

当時は今のようにメタボリックシンドロームというような話は余りありませんでしたが、少しは体重を減らす努力をしなければと一念発起?…朝の女房のウォーキングに引きずられるようにして、歩くようにしました。とはいっても現役サラリーマンとしては休日にしか実行できません。これでは運動量が足りないと自覚し、ジョギングをすることとしましたが、走り始めは0.5kmも走ると息は上がるし、膝は笑うし、ふくらはぎの肉離れはするしでたいへんな状態でしたが、半年もするとゆっくりゆっくりのスピードながら、2~3kmと距離も伸び、好い汗を掻けるようになり爽快な気分を感じるようになっていました。

このような状況でジョギングを続けてきましたが、今年からは毎日が日曜日的状況になり、ほぼ毎日走っています。最近では5km前後の距離を走るようになっていました。走るのもある種中毒のようなもので、なんとなく走らないと気持ちが落ち着かないような感じです。おかげでこの5年間の間に約7kgの減量に成功しています。いまだにメタボ解消とはいきませんが今後とも継続は力なりでジョギングを続けようとしています。

現在医者のお世話になることもなく、ゴルフボールの飛距離もそれなりに維持できており、健康のありがたさに感謝しています。

(ゼネコン会社退職 府中市在住)



七十に生きること古来稀なり

古希に思う

江口 光夫 (南6卒)

2年前の卒業50周年・古希の記念事業も終えて、例年通り「六南会総会・懇親会」を5月18日銀座で実施した。33名の出席があり、山形六日会から鈴木脩平副会長のご出席もあり、賑やかに開催した。例年6回生の長岡応援団長のエールで始まる「校歌斉唱」は4月に急逝され聞く事が出来ず誠に残念。長い間六日会(山形)と六南会(関東)との強い絆作りに尽力され、六南会設立の昭和57年には、12月に開催した初めての懇親会にも出席し、第6回生のリーダーとしての活躍に心からお礼の気持ちを込めてご冥福をお祈りしたい。

30周年・40周年に続く50周年記念事業という最後の大きな事業を成し遂げ、六日会・六南会を何時・どの時点で解散するかなどと話し合っていた矢先に大きな柱を失った感がある。

穏やかな中に強い信念を持って6回生を長年まとめてくれた努力は筆舌に尽くしがたい。今年に入って、早くも3人の仲間が旅立ち70歳を超えて、身体の変化が激しく、膝や関節の痛み、目は白内障、耳は難聴と驚くほど衰えを感じる昨今である。

(千葉市在住 江口さんは会の運営に活躍中です。)

古希を迎えて

村山 惇 (南6卒)

55、60、65歳のとき、しごとをやめて田舎暮らしを真剣に考えたことがあった。いずれも失敗して70歳になってしまった。社の30周年記念出版物もこなし、いよいよ引退後の計画をあれこれ考えはじめていたら、大型企画の推進役を任せられ、倒れるまで働けと命がくださった。家族からの引退コールをあびながら、炎天下、汗をふきふき満員電車通勤を続けている。南高サッカー部で3年間きたえた足腰とはいえ、あれ以来、健康維持のためのスポーツにも取り組まず、喫煙、酒、夜更かしの生活を何十年続けてきたことになるだろうか。週末になると、さすがに足元がふらつく昨今である。50年ぶりにサッカーボールとスパイクを買い、恥ずかしながら夜のグラウンドに出て、ドリブルで汗を流しはじめている。5年になる孫とふたりで。

(東村山市在住)

チャレンジ スピリット



中井川 秀男 (南3卒)

古希を迎えた年に、頸椎狭窄症の手術をしましたが、右足に少し後遺症が残り目下リハビリに励んでいます。以前テレビで巨人 長島さんの闘病生活のリハビリの放映があり一生懸命のチャレンジ精神の姿には感動させられ、元気をもらいました。

世の中が身障者へのいたわりが増え、現在健常者でない自分にとっては交通機関公共施設の種々の設置には恩恵をうけ感謝しております。来年からは後期高齢者といういやなレッテルはられますが、月々のカレンダーに予定を書き込み楽しむのと5年手帖を書きながら前向きに生き甲斐を求めプラス指向で生活しようとしている昨今である。

毎日がサンデーのいま思うこと



鏡 清蔵 (南4卒)

自分なりの趣味をさがして、楽しく、生き活きと毎日を過ごすこと、に尽きます。要は本人に興味があって、楽しめれば何でも趣味と言えるのでは？ 楽しむもの、健康増進のため、収入を得る物、教養を磨くもの、他人-社会のために、とにかく“打ち込めるもの”を早めに見つけてサンデー毎日を迎えること。

一度の人生！自分なりに気持ち良い暮らし、自分なりの実りある人生を目指しましょう。

私は仕事仲間に勧められ、健康増進を兼ねてゴルフを始めてすでに25年になりますが下手でも“楽しく出来れば”と満足して楽しんでいます。今までに無かった新しい世界に参加でき、前向きの生活をエンジョイしています。現役時代には仕事の上でも大変有利に“お助け”いただきました。日本でも、外国でも。ご存知のようにゴルフのお遊び？は世界共通のルールです。仕事で海外に出た時は現地人と、一人でもOK、女性とでもOK、上手、下手、関係なくハンディがあります。知らぬ他人と友達になり楽しみ、青空の下で健康的です。でも単身乗り込むには、ある程度までのレベルまでの頑張りが必要です-ある先輩がしみじみ後悔？してました。現役時にもう少し将来のため何か好きなものを磨いておくべきだった……と。ゴルフ、将棋、囲碁、盆栽、植木、花、料理、他等々、いずれにしても、毎日が楽しくなる、自分にあったもの、自分のもてるもの、に時間を割いて、一度の人生楽しく、気持ち良く、元気に、終わりまで暮らそうぜ！

短歌

北京五輪

千場 光男 (南3卒)

史上初リレーで銅の朝原よパトンを宙に最後を飾る

あん馬での落下がなんの航平君総合二位と逆転奪う

金賞に己を信じ三連投ソフトボールの上野彊し

俳句

最上三十三観音を巡礼しての句 江回文雄 (三高2卒)

本年は十二年毎に実施される最上三十三観音の子歳連合御開帳の年に当たっており、夕マタマ五月に巡礼して参りました。その時の句から五句選ばせて頂きました。

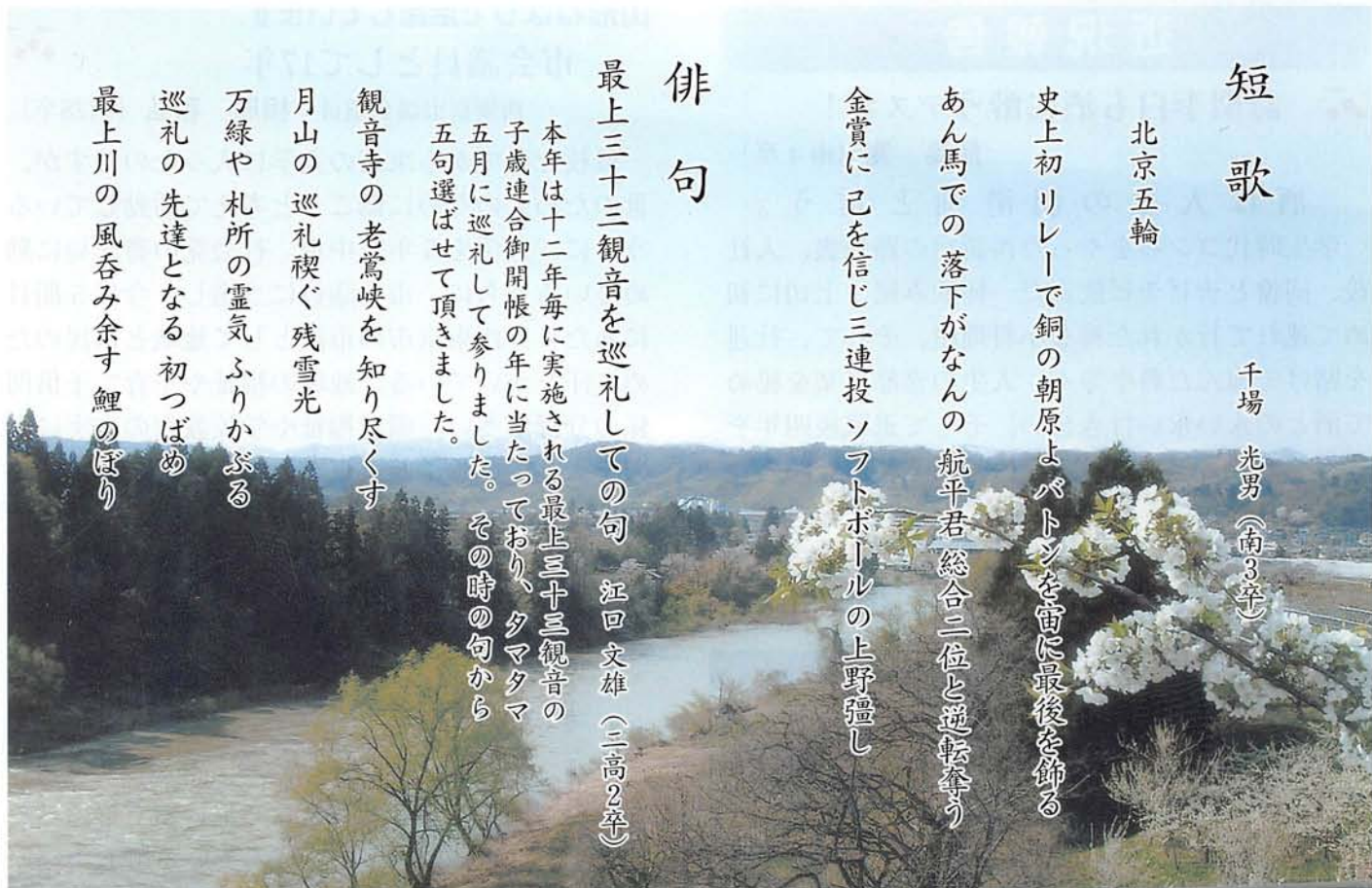
観音寺の老鶯峽を知り尽くす

月山の巡礼袂ぐ残雪光

万緑や札所の霊気ふりかぶる

巡礼の先達となる初つばめ

最上川の風呑み余す鯉のぼり



(9回卒の華九会のメンバーと共に)

恒例のガム島で勝負・あけび会

山口 健三 (南9卒)

「ワールドオープン グラムシリーズ」と称しグラム、同期生でゴルフを楽しむようになって今年の1月で6回を数えた。古希近くなるにつれあちこちの部品が痛んでくる同期生も増え、参加者も減ってきたので兄弟などへ輪を広げ楽しんでいる。勝負後の19番ホールでは、奥さんの監視の目から逃れ羽を伸ばして、国内ではそうお目にかかれないうわらじのようなステーキに舌づつみを打つ。これが目的の同期生もいる。

現役を退き影響力も年々薄くなりつつあるが、元気でメンバーフィーで安くプレーできる限りは、続けたいと思っている。(会社退職 吉川市在住)



ゴルフを楽しんでいます

高橋 亨 (南6卒)

我々「六南会」のゴルフコンペは、かれこれ20年続いている。

今春有志11名が参加し、岡部チサンCCにて行った。古希も過ぎ、体力の衰えを、口で補いつつ和気藹々プレーを楽しんだ。後、近くの八塩温泉にて、疲れを癒し、宴席では、表彰式、ゴルフ談議、近況報告、昔話と延々。翌日の名勝・古墳巡りの予定は、雨で残念乍ら中止、再会を約し散会。

実社会で成功するには、ねばりと負けん気と相手に勝つ根性が必要。それと人脉を大切にすること。オリンピックで勝つためには、まず出場したいと「思うこと」から始めねばならない。後輩を育てよう

近況報告

🍒 詩聖李白も酒に酔うデスネ!

飯島 寛 (南4卒)

酒は人生の潤滑油と言う。

学生時代コンパをやった西新宿の路地裏、入社後、同僚とチビチビ飲んだ一杯飲み屋、上司に初めて連れて行かれた粋な小料理屋、そして、社運を賭けて臨んだ料亭等々、人生の喜怒哀楽を秘めて酒との永い永い付き合い。そして退職後四年を経過した今、結構行ける口の家内と軽口を叩きながらの晩酌。

人の集う所、必ず酒あり。酒との付き合いは、まだ当分続きそうである。 (千葉市在住)

山形ねばりで活躍しています 市会議員として17年



西東京市議会議員 相馬 和弘 (南28卒)

母校を出てから東京の大学に入ったのですが、世のため人のために働こうと考えて活動しているうちに、大学を5年で中退。社会党の書記局に勤めているうちに、市会議員に当選し、今は5期目にあたり、西東京市の市議として地域と市民のために汗をかいている。地域の福祉や子育て子供関係の分野が多い。環境福祉や学校教育の充実にも力を入れている。西東京市の山形県人会では、毎春観桜会をもうけ、玉こんにゃくは大人気。政治信条として、平和を大切に、次世代にツケをまわさないように考えている。 (西東京市在住)

(以上は取材方式の記事です)

腰痛



佐藤 寛治 (南4卒)

腰痛に悩んでいる一人として毎日歩く事になっています。近くには高尾山・住んでいる町も小高い山に囲まれ森林が沢山あります。その中を歩きながらのストレッチ、時には木や野鳥と語り合い深呼吸しながら大木より“氣”を頂くようにしています。せめて脚腰の筋肉を保つように

(八王子市在住)

カラオケ



中村 武 (南6卒)

自分で楽しむため、歌の好きな私がカラオケ愛好会に入りました。

毎週金曜日には出かけ、楽しく過ごしています。仲間も増え、私には、健康と生きがいになり、良いと感じています。 (練馬区在住)

ご当地検定



増子 修 (南6卒)

近年観光都市の「もの知り検定」がブームであり私も昨年からの頭の体操を兼ねて「宇都宮検定」に挑戦して合格。今年の2月には「那須の検定」に合格。来年早々「日光検定」があるので資料集め、現地調査を開始しました。 (宇都宮市在住)

級友を偲ぶ

サヨナラ応援団長

加藤 芳男 (南6卒)

全校生徒を前にして
応援歌「空はコバルト……」

スマートな長身全体
を躍動させて
統率する姿は華麗で
した。

6回生の誇りでした。

サヨナラ
長岡正光君

合掌



故長岡正光君を偲ぶ

小関 憲一 (南6卒)

南高6回生の応援団長で、同期生の絆を固めることに尽力された長岡正光君は、去る4月20日に逝去された。

昨年10月11日蔵王での同期会とゴルフに元気で出席し、翌日は月山山麓の大井沢に泊まりがけで遊んだばかりなのに、余りにも早い旅立ちの報に茫然自失の状態であった。

彼とは相模小から南高と同じくし、東京の大学へ進んでからも大田区西六郷に在った山辺学生寮に入り、建家の老朽化で廃寮となる三年の終わり頃まで過ごし、退寮後には、西蒲田の六畳一間に二人で下宿した。そして程なく、寮生時に世話になった知人を訪ねるため京浜国道を横断中に、彼は自動車事故に遭う。大腿部複雑骨折の重傷を負って予後の長いリハビリの為、大学を休学し帰省する事になった。而して、三年余に渡る互助生活は終わったのだった。

彼の、彼岸への旅立ちにさいして、来し方の日々が走馬灯の如くに思い出される。 合掌



**才能開花**

まだまだ頑張ります 小山 稲雄 (南3卒)

サラリーマン時代の30数年「郵政」退職後、さしたる病気もせず好きな歌にのめりこみました。唄うだけでは飽きたらず、現在10ヶ所近いカラオケ教室を持つ講師として大いに羽ばたいています。まさに「芸は身を助く」です。

最初は手さぐり状態でしたが、今は自信たっぷり。教えることの楽しさを満喫しています。

年に1回市内ホールで発表会を開催しております。(出演者100名以上)すこぶる好評?です。

何をやっても苦勞はつきものですが、「好きこそものの上手なれ」で少しも身にこたえません。これからも身体の続く限り、頑張っていきたいものです。(船橋市在住)

**同期会のみなさんへ**

小松 栄三郎 (南15卒)

平成14年の再開1回総会に出席して以来、同窓会に関わらせていただき、現在常任幹事をしています。昨年、同期の滝口成一君も加わって、ホームページを立ち上げ、常任幹事となってHPの充実化に取り組んでおります。これから、二人で同窓会結成を目指していきます。15回卒の同期の方々、ぜひ集まりましょう!共に遊んで飲んで、刺激し合って、同窓会でしか得られない感動を共有しようではありませんか! (校長で退職 成田市在住)



想い出のスケッチ

県人東京連合会の総会に出席

9月7日(日)ホテルニューオータニの総会には、斉藤会長、小原(2中2卒)、高橋、山田、小原、鈴木、山口、滝口の8名が出席し、1テーブルを確保。小原大先輩が、終始にこやかに過ごされたのが印象的でした。

各学年卒の活動状況

ミミの会 活動状況



山田 勲 (南8卒)

2007年12月23日(日)東京体育館

南高バスケットボール部選抜優勝大会応援

2008年7月19日(土)ミミの会納涼会

柴又帝釈天、寅さん記念館見学の後暑気払い

2008年7月29日(火)・30日(水)深谷市総合体育館

南高バスケットボール部インターハイ大会応援

華九回 年間活動報告

小原 征四郎 (南9卒)

12月 華九一土会忘年会 20名

20年1月 あげび会ガムゴルフツアー開催

4月 あげび会山形地区コンペ参加

5月 東京同窓会ゴルフ同好会参加

6月 あげび会関東地区コンペ開催

7月 芭蕉ゆかりの地探訪15名

9月 山形県東京連合会総会 3名参加

10月 華九あげび会関東地区コンペ予定

10月 華九あげび会山形地区コンペ予定

その他卒業50周年記念事業準備役員会

2・4・6・9月渋谷にて集い打ち合わせ





次の飛躍の為に原点に戻ろう!!

副会長 浅黄 優喜 (南4卒)

東京同窓会は18年間冬眠後再度旗揚げされて、平成14年12月3日九段グランドホテルに於いて開催しまして、今年度で7回目の開催となりますことは嬉しい限りです。

母校南高はまもなく創立70周年にならんとし、伝統校として校是“文武両道”を旗印として益々存在感を高めている事に対して深く敬意を表したいと思います。

当同窓会の会員数は約2,300名程度の潜在会員数がおおと思われますが年々会員同志の交流が深まる反面、誠に残念ですがこの所同窓会総会の参加者が低下傾向にあり、役員一同、原点に戻って、鋭意努力している所です。

同窓会は南高に共に学び共に青春時代を偲んだ仲であり、新しい出会いを大切に、今後の人生の糧とし、又心の癒しの場として会員各位に定着するように一層発展を念じてやまない次第です。

総務担当として

副会長 江口 光夫 (南6卒)

平成14年山形南高校東京同窓会が復活し、再活動以来常任幹事として末席を汚していた。無からの出発だったので立ち上げには真剣に努力はしたが、設立当時は東京事務所に全てお任せの未熟な状況、これでは、いけないと役員に役割分担を決めて同窓会運営に当たって2年程度、これからが役員会の活性化が求められる。

現在、副会長・総務担当として、事務局との連携と強力、他の担当に属さない事項、役員会の進行、予算管理などを担当しているが先輩副会長・常任幹事の皆様のご指導・ご協力をいただき収まっている。だが古希を過ぎ、目はかすみ、耳は聞こえにくくなり、あれ・それ・ほれと言葉が出てこない状況では、大切な同窓会に迷惑をかけるのではと認識し始めた昨今である。とは言え、役職をいただいている間は、自分の能力の発揮に努め、会の向上と発展に寄与したいと思っている。

東京同窓会役員 (平成20年7月現在)

会 長	齊藤 常男(南5卒)						
副 会 長	椿 尋昭(南1卒)	浅黄 優喜(南4卒)	江口 光夫(南6卒)				
常任幹事	山田 勲(南8卒)	小原征四朗(南9卒)	鈴木 隆(南9卒)	清野 正昭(南10卒)	有海 豊(南11卒)		
	小松栄三郎(南15卒)	滝口 成一(南15卒)	鈴木 淳一(南25卒)	安孫子雅敏(南29卒)	山口 輝明(南29卒)		
	高橋 健一(南33卒)	西宮 忍(南33卒)	渡辺 弘樹(南35卒)	山田 健嗣(南36卒)	栗田 隆司(南42卒)		
監 事	加藤 芳男(南6卒)	高橋 亨(南6卒)	会計幹事	加藤 忠利(二高2卒)			
顧 問	会田 雄亮(二高2卒)	丹野 益男(二高2卒)	森谷 亨(南1卒)	土屋 裕司(南2卒)			
事 務 局	吉田 正幸(南36卒)	吉田 光伸(南36卒)					
			会報編集	鈴木 隆(南9卒)			

東京同窓会 学年幹事

二中1卒	庄司 政美	南高2卒	廣瀬 貞夫	南高9卒	高橋 英也	南高17卒	横山 澄男	南高28卒	会田 吉博
二中2卒	柏倉 昭夫	南高3卒	舟橋 一夫	南高9卒	石垣 丘志	南高17卒	横山 洋介	南高28卒	奥山 俊一
二中4卒	中澤 宗吉	南高3卒	藤井千代子	南高10卒	佐藤 昌平	南高18卒	岸 泰雄	南高28卒	相馬 和弘
二中4卒	鈴木 章夫	南高3卒	吉野 禮三	南高10卒	原田 陣悦	南高19卒	折原 光一	南高29卒	高橋 英樹
二中4卒	名和雄次郎	南高4卒	鏡 清蔵	南高11卒	大村 勝行	南高20卒	門脇 登	南高30卒	石堂 正美
二中5卒	加藤 忠利	南高4卒	作山登喜子	南高11卒	富田 隆造	南高20卒	川原 建次	南高31卒	西塚 裕行
二中5卒	駒林 誠	南高5卒	長岡 正哲	南高12卒	市村 好廣	南高21卒	石澤 敏弘	南高33卒	佐藤 孝明
		南高5卒	三浦 富男	南高12卒	毛利 昭	南高22卒	小笠原生真	南高34卒	庄司 昌吉
二高2卒	江口 文雄	南高6卒	中村 武	南高13卒	齋藤 恒光	南高23卒	鈴木 博之	南高35卒	西塚 勉
二高2卒	沼田 照	南高6卒	渡辺 滋	南高13卒	佐竹 純孝	南高24卒	清野 明	南高36卒	熊坂 昌之
		南高7卒	小松 三郎	南高14卒	佐藤 守彦	南高25卒	岩間 浩	南高37卒	尾関 功
南高1卒	杉山 彬	南高7卒	早坂 仁作	南高14卒	豊嶋 豊雄	南高26卒	開沼 博	南高37卒	長岡 栄二
南高1卒	山口 正輝	南高8卒	山下 史郎	南高16卒	佐藤 和彦	南高26卒	後藤 純一	南高38卒	梶沼 和幸
南高2卒	豊田 恒雄	南高8卒	渡辺 時彦	南高17卒	岸 秀一	南高27卒	武田 謙吾	南高38卒	黒沼 篤

50年目の甲子園！

第9回卒 野球部員一同 岡村 仁司
共筆 冨塚 辰雄

私たち第9回卒野球部員10名「青山、秋元、磯辺、大石、岡村、小松、原田、冨塚、鎌水、そして飯野(4年前故人)」に当時の監督山下さんを加えて『燦々会』(昭和33年の第40回甲子園出場組)と称しときどき会っていたが、あるとき誰かが言った「自分にとって甲子園出場は何にも変えられない宝物のようなものだ!」それを聞いていたみんなも頷いた。私たちが出場したあの昭和33年の第40回甲子園大会から早や50年の歳月が流れた。そこで会の記念行事として「みんなで甲子園に行こう」ということになった。

8月2日(土)大会第一日目の開会式に合わせ私たち第9回卒野球部員に監督の山下さんもご一緒されて8月2日甲子園に行った。そしてついに半世紀を経てナインとともにあの懐かしい甲子園球場に再び立つことができた。出場した当時をそれぞれ思い浮かべながら球場の隅々まで眺め、みんなは万感の思いで目頭を熱くした。

今回の私たちナイン全員の参加とはいかなかったものの、再び甲子園球場に再び立つことができ興奮と感激の連続で終わった。

終わりに私たち山南第9回卒野球部は山形県県内の高校野球大会では、秋季、春季、夏季の公式戦すべて優勝し、練習試合も勝利し無敗でありました。

今野球部OBの一人として卒業後の長い50年間の人生を振り返ってみると、社会人としてさまざまな困難を体験するなか、野球で鍛えられた忍耐力、精神力、そして甲子園出場を成し遂げた自信などが、それらを乗り越えるための一つの支えとなったように思える。山南野球に感謝

そして母校に思いを馳せると

“東に碧き蔵王峰 晴れわたるみちのくの空”の下、山南グラウンドで野球部後輩の練習する掛け声とカーンカーンという打球音が聞こえてくるようだ。

50年ぶりの三冠達成

バドミントン部OB 金森 義弘

「山形南高50年ぶり頂点」平成20年6月8日付山形新聞の見出しを飾った記事である。

第59回山形県立高等学校総合体育大会で我が南高バドミントン部は団体戦、ダブルス戦、シングル戦で見事三冠優勝の栄誉を手にした。実に50年ぶりの快挙を成し遂げてくれたのである。

南高が県総体で団体戦を勝ち取ることなどは学校側は勿論OB会も夢とっておりました。

小生一昨年に山形県バドミントン協会長に推挙され昨年は南高バドミントン部OB会長を引き受けて、今年には三冠優勝とあまりにも話ができていていると思ったものである。しかしこれは決して偶然ではない。現役諸君の日ごろからの努力と練習は勿論のこと、父兄は保護者会を立ち上げ始動し、OB会は再編し資金面でバックアップ、学校側、同窓会、スポーツOB会、山形地区バド強化指導部等の支援体制が見事に一体となって成し遂げられたものです。

8月埼玉県での全国インターハイでは今の県レベルでは入賞することは困難です。が、南高でバドミントンを是非やりたいと村山地区の優秀な諸君が目指してくれている現状を認識し、更に基盤を強化し二度目の全国制覇を目指して努力して参りたいと思っております。山形南校東京同窓会の皆様のご支援を宜しくお願いいたします。

(財)山形県体育協会長 南9卒

在校時はバドミントンで全国優勝を果たしました。

頑張れ山南野球部！

最後に伝統ある『♪山南野球部部歌』を野球部後輩向けに歌い終わりにしよう。

♪ 空は青空 心が弾む

今日も練習 大地を蹴って

磨く技には 限りがないが

たゆまず鍛えよ われらが腕(かいな)

行こう 行こうよ あの甲子園





ミニミニ奥の細道

清野 正昭 (南10卒)

梅雨さなかの6月下旬、妻とローカル線に乗り庄内地方の旅をした。目的は芭蕉の奥の細道で有名な最上川舟下りと日本海の夕日である。古口駅付近から舟に乗る、折からさくらんぼ狩りの季節と重なり舟は満員の盛況船頭の最上川舟歌と名調子の案内でしばし芭蕉の気分ひたつた。

舟歌や 俄か芭蕉の 夏帽子

宿泊した湯野浜温泉は55年前小学校の修学旅行で訪れた思い出の地。日中のどんよりした雲が、夕方から奇跡的に切れ日本海に沈む雄大な夕日を心ゆくまで満喫した。

日の沈む 音を海鷗の ごとく聞く

胸奥を 夕日のなぞる 夏の蝶

定年を機に南高同期の平尾君からの勧めで俳句をかじり出して3年、ボケ防止のためと称して下手な句作りを楽しんでおります。(柏市在住)



赤字の国家と儲からない会社は、やりようがない。儒教は上からの押しつけ思想なので、個人主義は育たない。日本、中国、朝鮮しかり。戦後の民主主義、個人尊重は、新しい土壌の中で育ってきた。子が親から自立、女が男から独立、嫁が家から抜け出した。ところが、21世紀になって老人大国なのに国家は赤字。誰も老人など面倒みれない。老人を放っておくのか。…いや、子供がいる。面倒見る以外あるまい。ということで急拠「孝」の思想が表舞台に登場。つまり儒教の復活である。…だが待てよ、せっかく育った個人主義が、古くさいカビの生えた宗教につぶされなければいいのだが。…

北京オリンピック始末記 (ある文明的批評より)



スポーツも芸術なり!!
棒高跳びの
エレナ、イシンバエワ
毎日新聞より



真の王者!
北島 康介
毎日新聞より



勝つコツを悟った男
石井 慧
(勝つためには挑戦者のつもりで)

大切な隣国の開催ながら、強権と弾圧の統制の下、無事に終わってそれでも安堵。だが、内容はお粗末。門戸開放と国際交流で万里長城に風穴をあけ、民主化すると期待したが、思惑外れ。真実を隠し、強権で弾圧を加え、クサイものにはフタをし、見栄えの良いところだけ百倍にして見せるパフォーマンスは中国人古来の手法。これでは正直を愛する日本文明に数段劣り、アジアのリーダーの資格なし。

昔から中国と朝鮮は儒教が浸みこんでアジア型専制主義の下で皇帝第一で人民の人権は無視。これに仏教の曖昧で非現実思想が加わり、人民の自己主張なし。かくして五輪はスポーツの祭典を通り超して、国威発揚、金権メダル獲得へとスポーツ精神と反対の方向に向かう。その手法と執念と行動はまるでヒットラーのそれと同じ。無事の終了を喜びつつも、何も進歩してない中国の現実。早く隣人が豊かになり大人になってくれないと困るのは私達の方。

大陸の奥に入り田舎で接してみると、親切さとやさしさは日本人と変わらない。ただ彼等の非常時の反応は動物的であり、私達よりずっと感情的でしかも老獪なのであります。

編集後記



会報は連絡事項を伝達し、意思の交流を深め、事実を記録するものであるが、2ヶ月間没頭する。外観と内容の充実を努め、ライバル校どころか日本一をめざす。それには見てくれではなく、寄稿者からいかに真実を引き出すかが肝要。文芸重視だけでなく、全体に詩情が流れていなければダメ。…と思いつつ、やっと印刷にまわす。反転して、仕事と文筆の遅れを取り戻そうと気を取り直す。たくさんの声援とご協力ありがとうございます。 — 人生意気に感ず、功名誰か復論ぜんや(唐代 魏徴)の気持です。

※会報はホームページにて広報されます。※

会報編集者 鈴木 隆 (南9卒)

(第6号の記事募集 — 150字程度、写真1枚、テーマ自由)

編集連絡先 千葉県船橋市東船橋1-37-7 東船橋不動産内 TEL 047-424-7200 FAX 047-424-7201

母校だより

東京の皆様へ

同窓会事務局長 木村 元昭

今年度より南高同窓会の事務局長を仰せ付けました木村でございます。26回卒であります。母校に勤務し4年目になりますが、総会や各OB会の大盛会振り、同窓会事務室の黒板に記載される、各学年、職域、支部等の会合の多さを見るに付け、南高同窓生諸氏の他校に負けない母校愛、団結力の強さを感じて居ります。

南高の校舎の一角に同窓会事務室と南高ギャラリーが設置されて居ります。山形へ帰郷の際は、ぜひ母校をおたずね下さい。



生徒会長 鈴木 綾

南高はなんていい学校なんだ。生徒会長という役職も残りわずかという今になってこの思いが強くなってきた。会長として過ごした時は、素晴らしい伝統を守りながら、あたらしいことに挑戦してきた。そんな中、わかったことがある。それは、南高生はなんでもできるということだ。文武両道の環境に身を置き、礼儀や節度をわきまえ、爆発する時は全員が一丸となって騒ぐことができる。それが南高が賞賛される所以であると思われる。

無限の可能性を秘めた南高生は留まることを知らない。これからも躍進を続けるはずだ。

（郷土だより）
天童の食べ歩き「平成鍋合戦」は12月7日(日)開かれます。

平成19年度 収支決算書(案)

収入

項目	予算額	決算額	増減
総会費	785,000	637,980	△147,020
年会費	800,000	682,780	△117,220
寄付金	60,000	60,000	0
繰越金	1,022,760	1,022,760	0
繰入金	0	1,381	1,381
広告協賛	120,000	120,000	0
計	2,787,760	2,524,901	△262,859

支出

項目	予算額	決算額	増減
会場使用料	30,000	25,500	△4,500
懇親会経費	700,000	503,321	△196,679
会議費	150,000	205,970	55,970
総会案内経費	300,000	246,660	△53,340
名札印刷経費	10,000	0	△10,000
プログラム印刷経費	160,000	168,000	8,500
振込用紙印刷等経費	10,000	0	△10,000
事務費	150,000	79,502	△70,498
東京同窓会会報	150,000	150,000	0
ホームページ制作費	100,000	0	△100,000
特別積立金	600,000	0	△600,000
活動費	100,000	0	△100,000
予備費	327,760	90,000	△237,760
計	2,787,760	1,468,953	△1,318,807

収入総額 - 支出総額 = 差引
2,524,901円 - 1,468,953円 = 1,055,948円

人生意気に感ず

教頭 奥山 雅信

今春、赴任してまいりました26回卒(柔道部)の奥山と申します。教員として母校に勤務できることを大変うれしく光栄に思っております。各種大会や生徒会行事に30数年前の自分を想い出し、時には応援歌に目頭を熱くしながら仕事をしております。

「文武両道」の校是のもと、一生懸命頑張る生徒たち、高い指導力と熱い情熱で導く教師集団、そして物心両面で支えていただいている同窓会、PTAの方々の結集が山南の力だと、改めて感じております。



書道部部长 中村 聡

早いもので、私が書道部に入ってから二年半、引退の時期となりました。先輩方からの技術・精神両方での御指導、私たちが信頼して支えてくれる後輩、そしてライバルとして切磋琢磨してきた友人。皆がいて全国高総文祭出場という名誉、そして今の自分があるのだと思います。今の自分ならば暑苦しくても素晴らしき、漢の軍団の一員と胸を張って宣言できます。往年の先輩方が築いて来られた軍団の一員として恥ずかしくないよう残った南高生活を充実したものにしたいと思っております。

慶弔のお知らせ (山形のみまで記載)

物故者(敬称略) ご冥福をお祈り申し上げます。

旧職員

19年12/18 軽部晋四朗 先生(国語・教頭)(S.29.4~48.3)
20年 7/16 河田 親二 先生(学校長)(S.52.4~57.3)
8/14 渡辺 俊一 先生(保健・体育)(S.39.4~49.3)

同窓会員

17年 1/ 秋場 政法(南29回) 19年12/17 藤田 浩也(南2回)
19年 3/22 長南 篤(南5回) 12/24 大場源太郎(二中1回)
6/ 1 志賀 雅一(南13回) 12/ 遠藤 邦靖(南9回)
6/ 8 伊藤 喜惟(南17回) 20年 1/ 1 佐藤 隆彦(南10回)
6/11 大築 吉介(南6回) 1/ 4 高橋 信敬(南11回)
6/30 青葉 仁(南11回) 1/18 佐藤富士夫(南2回)
8/31 佐野隆一郎(南3回) 1/22 萩生田邦男(南9回)
9/ 8 結城 正之(二中4回) 1/26 斎藤 崇成(南1回)
9/24 佐藤 秀昭(南17回) 2/ 3 花輪 忠市(南11回)
9/25 石井 秀男(南8回) 2/ 8 石山 晴彦(南2回)
10/ 9 大貫 裕輔(南5回) 2/27 萩生田紘彦(南14回)
10/11 渡辺 高志(南17回) 3/ 6 草刈 清(南2回)
11/12 下山 義威(南32回) 3/ 7 小林 哲朗(南4回)
11/19 長谷川信一朗(南26回) 3/10 田中 信雄(南14回)
11/19 高橋 剛(南30回) 3/15 田苗 三郎(南7回)
11/27 伊藤 充浩(南1回) 3/20 緒方 徹(南9回)
11/ 石沢 昭郎(南1回) 4/20 長岡 正光(南6回)
11/29 和田 進(南14回) 5/23 河野 英丸(二中4回)
12/ 6 横 正彰(南18回) 5/28 高橋 賢(南4回)
12/ 6 武田 淳(南10回) 6/12 丹羽 健市(南6回)
12/ 松田 孝一(南2回) 7/13 富樫 善夫(南7回)
12/12 富塚 公一(二中2回) 7/15 中村 博(南1回)
12/12 阿部 隆(南15回) 9/ 1 永野 喜昭(南11回)

“地域に溶けこみ、感謝され、人気者になる!”
これが南校精神の究極の生き方の一つです。
長文ですが、感動共有のため、全文掲載。
晴海の夏祭りを仕切った男

例大祭実行委員長の顛末記

石垣 岳志 (南9卒)

「住吉神社例大祭晴海実行委員会会長」これが私の肩書きです。4月に連合町会役員会で「まったく経験のない世界で私には勤まらない」と辞退したのに、皆でサポートするからと選

出されたのが始まりです。急いで図書館に行きそれらしい本を手当たり次第に借りて読んでみたが、それぞれの神様の故事来歴や建物の説明等はあるものの肝心のしきたりや作法は見つける事が出来ません。しかしこれは当然で個々の神社ごと地域ごとに違うものだと気が付きこれは成り行きに任せるしか無いと腹をくくり流れに乗る事にしました。合計6回の実行委員会を重ね準備いたしました。

7月12日ホテルの宴会場へ各地の神輿同好会代表を集めての説明会から始まりました。広間の長手方向へ我々役員席を設け前に丸テーブルを10個2列に並べ左右の壁にはそろいのゆかたに角帯雪駄の若者が40人ほど立ち客を迎えます。まるで任侠映画で見たようなシーンです。客はいかにも担ぎ手らしいかつい男が多いですがほんとに担ぐの?と首を傾げたくなるような昔の若者も居りました。当町内の神輿巡行ルールを説明して当方の若者も席につき親睦の宴会。

8月1日前日から組み立てているよしず張り仮屋が仕上がり、テントを3張りほど組み建て提灯を飾り完了。

夕方ゆかたで正装して、神主を迎え神輿の御霊いれ。しかし突然そこにそれらしい4台の車を連ねて十数人の何とか一家のお兄さんたちが祝いにやって来た。祝いの品を受け取れ受けとれぬと押し問答の末、らちが明かないと捨て台詞をはいて帰ってくれたが、後に堂々と貰った4斗樽を飾っている時代錯誤の町会もありました。誇って良いことですが、我々晴海連合町会は盆踊りのテキヤを含めこうした勢力と一切かわりを持ちません。

8月2日いよいよ神輿巡行の

当日、分社前で無事故を祈る挨拶をして送り出す。私はゆかたの正装のまま本部席で来客の祝いを受け取りその相手をする暇な留守番の役目。



この日は月島の西中通り商店街を各町内神輿十数台が連なりNHK朝ドラにそのシーンが入るはずでぜひ見たかったが残念でした。役員連なって各町会へのあいさつ回り。これも可らしい事にどこも留守、それも当然でそれぞれもあいさつ回りをしているという訳です。

8月3日お囃子、幼児山車、子供神輿、町内神輿、を連ね午後には本社神輿を加え1日中町内をめぐり盛り上がりました。わたしもゆかたのまま本部前で担がせてもらい満足しました。神輿を取めて午後4時。道路50mにシートを敷きテーブルを並べ歌舞伎座から取り寄せたという豪華なオードブルを据え慰労宴会場を設置して同好会の接待の始まり。早い組は15分ほどで本部に挨拶に来て帰るがその都度車代を渡し一本締めで送り出します。5時頃にはほとんどのグループが帰り接待終了。その後がようやく町内の慰労会。持病をわすれ久しぶりに日本酒をしたたかに飲む事となったがいくら飲んでも酔わない不思議な酒でした。

8月4日本部席や仮屋の敷地に借りていた駐車場を業務開始の9時から使えるように返す必要から早朝7時に片付け開始、とび職電工など専門職を加え時間通り無事終了。

資金集めも実に巧妙で1口1,000円キャンペーンを行い広く住民から募金を仰ぎこれだけの人数が募金に応じているがどうしてもこれだけ足りないとして大口寄付者にさらに協力を迫ってみたり。ここ1~2年で人工が倍増するという大規模開発中の晴海地区では実に1,300万円集めました。

運営の方も過去の詳細な記録が残してありそれを基に4~5人の「祭りが命」の面々がそれぞれ自分の役割を果たすので落ちはありません。なるほど経験がない私が大将でもやれるわけです。それにもうひとつ「祭りが命」の彼らは半纏を着て神輿を担がないと祭りになりません。誰か落ちていて正月の鏡餅のように座っている人間がほしかったという事で、たまたま背が高くゆかた姿が様になり、おまけにひげなどたくわえたものだから重宝されたと納得しました。他の町会、大口寄付者や警察署、消防署、区役所とひきまわされ口数少なく重々しく挨拶して歩くだけで用が足りるわけです。9月の20日にホテルの大広間を舞台にメのご苦労さん会を盛大に開き収支報告書を披露して大いに飲んで最後を飾りました。それにしても東京下町、祭りの大将とは楽しい経験をさせてもらった夏でした。(中央区晴海在住)

